

ま え が き

我が国の養殖業は、遠洋漁業や沖合漁業の衰退の中で、120万トン前後の収穫量を維持し、国民に安全な水産物を安定的に供給する上で重要な役割を担っています。その一方で、長年に亘る過密・過給餌による漁場環境の悪化による生産性の低下、種々の疾病の発生を招きました。これらの反省に立って平成11年5月に持続的養殖生産確保法が施行され、漁場環境の保全や環境と調和した養殖業への転換が図られました。しかしながら、外国からの種苗の輸入、広域的かつ複雑な種苗の移動、漁場環境や飼育管理の変化等により発生する疾病には、従来技術・知識だけでは対応が困難なものも少なくありません。

当協会では、水産庁の委託を受けて魚病対策センター事業の一環として、増養殖に大きな被害を与えている疾病を対象に原因の解明を始め、診断、治療、予防並びに効果的な防疫に関する技術の開発研究を都道府県水産試験場および関係大学に委託して実施しました。

本書は、平成13年度に実施した研究成果を取りまとめたもので、各成果が都道府県の指導機関等の診断、防疫指導等に活用されるとともに、魚介類疾病の研究の一助となることを期待します。

本技術開発研究の推進に多大のご指導・ご助言をいただいた養殖研究所並びに研究に参加いただいた都道府県水産試験場、大学の関係各位に深く感謝申し上げます。また、客観的な研究成果等の評価とご助言をいただいた若林久嗣東京大学名誉教授、飯田貴次宮崎大学教授並びに井上潔養殖研究所病理部長に厚くお礼申し上げます。

平成14年3月

社団法人 日本水産資源保護協会
会長理事 木村 邦雄